

ひがしいっぽんやなぎこふんしゅつどひん
東一本柳古墳出土品



指 定 県 宝 令和3年10月18日
所有者 佐久市

東一本柳古墳は、佐久市岩村田に所在し、湯川を南に望む標高700mの台地上に位置する。古墳は平地上に築造された南北10m、東西6.8mの円墳で、残存墳丘高は1.0mを測る。主体部は南に開口する横穴式石室で、両袖式をとり、規模は全長が6.1m、奥壁で幅1.8m、玄門部で幅1.2mである。

昭和46年に佐久市教育委員会が主体となって発掘調査を実施し、石室内床の2面から遺物が出土し、上面は平安時代の追葬と考えられる。第2棺床は第1棺床の40cmほど下の礫床面で、副葬品として棘付花卉型杏葉・飾金具・方形辻金具・帯先金具を含む金銅製毛彫馬具、その他の武器類、装身具、玉類などが出土している。特に金銅製毛彫馬具については7世紀前半の資料とされ、一式の馬具として全容が把握できるものは県内でも当古墳の資料だけである。また、全国的に見ても同一古墳で毛彫製毛彫馬具と玉類が共伴して出土している事例は珍しいと言える。